

令和元年度 横浜市立四季の森小学校 学校だより

このまちに生き、共に輝く子

ねばり強く取り組む子 思いやりのある子 命を大切にする子 地域に愛着をもつ子 社会への視野を広げる子



# 四季の森

11月号

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/shikinomori/>

## 経験を積み重ねる

副校長 安富 直樹



9月29日(日)に校庭で、地域防災拠点訓練が実施されました。マグニチュード6の大きな地震が発生したという想定で、多くの方々が参加されました。いざというときに備え、地域、行政、学校が連携し、訓練が行われました。上白根中学校の生徒も参加し、水や食料の配付作業などを手伝っていました。卒業生の立派な成長の姿が見られ、大変うれしくなりました。

今回は、はしご車を使った救助体験も行われました。屋上から救助されることを想定した訓練を見ていると、はしご車は、いったん屋上よりも高い位置までゴンドラを上げ、それから救助を求めている人に近づいていきました。ゴンドラを直接屋上に近づける方が早いのにどうしてだろうと考えていると、消防署の方が、「救助を求めている人の気持ちを落ち着かせるため、屋上よりも高い位置から消防士が声をかけながらゴンドラをゆっくり下げていく」と説明してくださいました。実際の訓練を体験し、初めて知りました。小学生も、はしご車に乗って地上35メートルの高さを体験しました。地上との「風の強さの違い」を感想で述べるなど、振り返りをする事で、この体験がいざというときに役に立つ経験になったようです。

本校の校内には数多くの掲示板があります。これらの掲示板は、放送委員会の子どもたちが定期的に貼り替えています。階段の踊り場には、ラグビー日本代表キャプテン、リーチ・マイケル選手が力強く走り出す写真と「いじめは、フェアプレーの精神に反する行為です 日常生活でもフェアプレー」と大きく書かれたポスターが掲示されています。また、森の図書館には、読書週間に合わせて、「おかえり、葉の場所で待ってるよ」と、本との出会いをさらに促すような意図をもったポスターが貼られています。日常生活の中にある何気ない様々な文字や写真ですが、米ハーヴァード大学医学部、ケルシー・ティソウスキーら研究チームによると、繰り返し見たり、その意図を考えたりすることで、そのすべてが「経験」として、見る人に蓄積されていくそうです。特に前向きなメッセージは、脳の神経細胞ニューロンそのものが「経験を記憶」という研究結果が発表されています。疑似体験、図鑑や辞典、本などで読んだこと、絵や写真からの情報も経験へと変わっていくのです。

11月も多くの行事が予定されています。3年生は音楽会に参加したり、個別支援学級は宿泊体験をしたり、2年生は旭図書館に出かけたりするなど、子どもたちにとって初めての体験も数多くあります。直接体験することの大切さはもとより、読書やポスターなどから語彙を豊かにし、経験のニューロンをさらに増やし、自分とつなげながら、考えを広げていく四季の子を育てていきたいと考えています。

